

## I 地下水と土を育む農業に関する子どもへの理解を深める活動について

熊本県農林水産部生産経営局農業技術課  
課長 酒瀬川 美鈴

熊本県は、生活用水の多くを地下水で賄っている全国にも例をみない地域です。

その要因としては、阿蘇山の火砕流噴火によりできた水を通しやすく地下水を育みやすい地層や豊富な降水量などとともに、堰や用水路の整備により拡大した水田が地下水を涵養し、その水量が豊かになったと考えられています。

肥沃な土壌もまた、全国有数の農業県である本県を支える生産基盤として欠かせないものです。その背景には農業者の不断の土づくりの努力により育まれ維持されてきた側面があります。

熊本県では、農業の力で地下水と土を恒久的に守るため、平成27年4月に新たな条例を施行し、「地下水と土を育む農業の推進に関する計画」を策定しました。計画の推進にあたっては、県民会議を設置し、県、市町村、農業団体、農産物販売業者、消費者団体や環境保全団体等それぞれの立場の方々が一緒に県民運動を展開していくこととしています。

中でも消費者の役割は重要で、この取組みにより生産された農産物を積極的に購入して生産者を支えていただくこととなっています。この生産と購入のサイクルが回ることで、県民一体となった息の長い取組みを実現し、地下水と土を50年先、100年先の未来に引き継いでいきます。

令和2年度から運用を開始した第2期推進計画では、次世代を担う子ども達を対象とした理解促進活動の充実強化を図ることとしています。

今回、教育関係者の皆様方の御理解と御協力を得て、令和2年10月に「地下水と土を育む農業学習教材研究ワーキンググループ」を設置し、関連單元における授業展開案や映像などの補助教材の内容について、協議を進めてまいりました。作成にあたっては行政が陥りがちな施策の一方的な説明にならないよう、先生方の御意見を十分にとり入れ、手引書を作成しました。

令和3年度からは、いよいよこの教材を活用した「実験授業」がはじまります。本手引書や補助教材を通じて子ども達が「地下水と土と農業の関わり」を学ぶ機会が増え、熊本の宝である「地下水と土」をこれからもずっと守り続けていくという気持ちが育まれることを期待しています。